

群馬県立板倉高等学校 学校評価一覧表②（令和4年度版）

（様式2）

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校 づくりに努めて いますか。	1 特色ある教育活動を行 っていますか。	①類型・コース制の特色を生かした教育 課程に、生徒の80%以上が満足している。	A	A	A	○類型・コース制に満足している生徒が9割以 上である。生徒及び保護者の要望に十分応えて いる。 ○チャレンジタイムに積極的に取り組んでいる 生徒が9割を超えている。今後も継続する。	○類型・コース制で、生徒が満足してお り、生徒の個性や強みを引き出している。 ○チャレンジタイムは、社会に出て役立 つ教育であり、継続してほしい。 ○生徒の満足度が高く、評価できる。	○生徒の満足度を考慮に入れ、生徒の個性や 強みに着目し、さらなる教育課程の点検・評 価・改善をしていく。 ○チャレンジタイムの内容については、実社 会で必要力を考慮し、改善していく。
		②チャレンジタイムⅠ・Ⅱ・Ⅲの内容 に、生徒の80%以上が満足している。	A	A	A			
Ⅱ 生徒の意欲的 な学習活動につ いて適切な指導 をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指 導を行っていますか。	①「授業が分かりやすい」と、生徒の80 %以上が答えている。	A	A	A	○90%以上の生徒が授業が分かりやすいと感じ ている。分かる授業を大切にするとともに、生 徒が活動する場面や考える場面を多く取り入れ るようにする。 ○75%の生徒が授業中の活動に参加していると 回答している。さらに「主体的・対話的で深い 学び」となるように学習内容を検討する。	○生徒と教員の距離感のない温かい授業 が見られた。 ○授業改善に粘り強く取り組んでほし い。 ○数値目標の80%に近い成果が上がって いると思う。	○引き続き、生徒と教員との良好な関係を維 持しつつ、授業の改善すべき点を明確にし、 教員同士の授業参観、職員研修を通じて、生 徒の実態に即したより良い指導方法を共有 し、「主体的・対話的で深い学び」となるよ うにしていく。
		②授業中に、「活動しながら学習したり、 学習したことをもとにして考えることが ある」と生徒の60%以上が答えている。	A	A	A			
	3 生徒は確かな学力を身 に付けていますか。	①単位未修得者は、全生徒の5%以下で ある。	/	A	A	○単位未修得者は減少傾向にある。今後も学習 習慣を身につける指導を充実していく。 ○基礎科目で身につけた知識を活用する場面を さらに増やしていくようにする。 ○より上位の資格取得ができるように、生徒の 学習意欲の向上の促進と達成感を育む指導方法 ・体制の充実を図る。	○単位未修得者の減少傾向は、良いこと である。 ○引き続き、基礎基本を重視してほしい。 ○各種検定等にチャレンジできる機会が 多く設けられており、学習意欲の向上に つながっていると思う。	○興味関心の違いや学力差に応じた指導・支 援を充実させ、意欲を育むような工夫をして いく。 ○基礎基本の定着を重視しながら、発展的な 内容に結びつくように心がけていく。 ○上位の検定受検者を増やしていくように動 機付の工夫をしていく。
		②「基礎科目」によって基礎・基本の知 識が身についたと感じている生徒が80% 以上である。		A	A			
		③資格取得に向けた指導に、生徒の80% 以上が満足している。		A	A			
	4 組織的・継続的な指導 を行っていますか。	①規律が保たれ、学校が安全だと感じる 生徒が80%以上である。	A	B	B	○問題件数、退学者とともに減少している。生徒 の実態を全職員で共有し、統一見解で指導する 体制を整える。 ○服装頭髮指導で指導される生徒数が減少した。 ○校内組織の充実、アンケートの活用、スкуль ルカウンセラーや保護者との連携等、チェック 体制等を点検・評価し、積極的にいじめの認知 及び解消に努めている。 ○欠席率、遅刻率は、具体的数値項目を満たし てはいるが、さらに改善していく必要がある。 保護者の協力のもと、指導体制を構築をしてい く。 ○引き続き、交通に関する情報の提供や交通安 全街頭補導等を通して、ルールを遵守するこ との大切を認識させ、事故防止に努めるように する。 ○生徒への指導体制を確立していくとともに全 職員の共通理解を図る。	○問題件数、退学者等が減少傾向である ことは、良いことであると思う。生徒と 教員との関係が良いためと考えられる。 ○制服等についても、乱れてはならず、 決まりを守ることを大切に、取り組 んでいると感じる。 ○自転車通学者のヘルメット着用率向上 に取り組み必要がある。 ○いじめアンケートの数値を具体的数値 目標に挙げると良いのではないかと。 ○部活動加入率が増加することで、打ち 込めることや仲間が増え、より良い生活 が送れると思う。	○教員が指導し、規則を守らせるだけではな く、生徒が自ら考え、行動し、規範意識を高 めるようにしていく。 ○服装頭髮指導などの生徒指導に関して、統 一見解で指導できるようにしていく。 ○いじめについては、アンケートの数値目標 を回数から学校の出組状況の認識程度値とす るとともに、生徒が安心して過ごすことがで きるように、いじめアンケート、アンケート 結果のフィードバック、常日頃からの生徒観 察に心がけていく。 ○部活動については、社会の変化や生徒の実 態に対応する在り方を検討していく。
		②基本的生活習慣を身に付け、服装頭髮 などみだしなみがしっかりしている生徒 が80%以上である。	A	A	A			
		③部活動の加入率を60%以上にする。	A	A	A			
Ⅳ 生徒の主体的 な進路選択につ いて適切な指導 をしていますか。	7 計画的な指導を行って いますか。	①「板高進路ニュース」を月2回発行し 内容の充実を図る。	B	B	B	○「板高進路ニュース」の、ドリカムプラン関 連情報、進路選択の必要不可欠なこと、一般常 識問題等を掲載し、さらなる充実を目指してい る。 ○進路行事に関して、進路希望調査に基づいて 見学先、体験に内容を検討し実施している。 ○適性診断、職業検査、学力テストを実施し、 検査結果の見方を指導し理解を深めている。 ○進路情報は適宜提供していく。必要な生徒に は、個別指導をしていく。	○「進路の手引き」「板高進路ニュース」 を読んでいる生徒が少ない。生徒が興味 を持てる内容も必要ではないか。 ○進路選択は高校にとって最重要課題だ と思うので、BをAにするよう工夫して ほしい。 ○ドリカムプランは、計画的でわかりや すいと思う。 ○進路に合わせた個別指導は、保護者生 徒ともに安心できる。今後も充実した取 組を継続してほしい。 ○「自分にとっての職業観」の育成が大 切である。	○「進路の手引き」「板高進路ニュース」に 関して、具体的数値項目を発行回数から内容 等に関するものに改善し、より生徒の興味関 心を引き、進路実現に役立つ内容としていく。 ○ドリカムプランについても、社会や生徒の 変化も考慮しながら点検評価し、改善を進め ていく。 ○進路に関しての個別指導を引き続き行い、 より良い進路実現を目指していく。
		②「ドリカムプラン」に生徒の80%以上 が満足している。	A	A	A			
		③生徒の将来の志望について理解してい る保護者が、70%以上である。	A	A	A			
	8 生徒は自らの進路につ いて真剣に考え、その実 現に向けて取り組んでい ますか。	①自分の適性を理解している生徒が、60 %以上である。	A	A	A			
		②進路実現に向けて積極的に取り組んで いる生徒が70%以上である。	A	A	A			
		③100%の生徒が、目標とした進路を実 現できるようにする。	A	A	A			
Ⅴ 開かれた学校 づくりに努めて いますか。	9 家庭、地域社会に積極 的に情報発信をしていま すか。	①PTA総会、授業参観、学年保護者会 等に参加している保護者が、のべ50% 以上である。	A	A	A	○新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつ つ、簡略化して実施した。保護者がより参加し やすいものを目指す。 ○年2回、カラー版で発行し、掲載内容も工夫 した。 ○webページは、今年度、新しく作成した。 閲覧しやすいものに改善した。また、各行事実 施後更新することができた。今後も、閲覧数 を増やす工夫をしていく。	○「板倉高校かわら版」は、一般住民と 板倉高校を結ぶものなので、より充実し たものを期待する。 ○web活用での行事参観等を試験的に 実施してみてもどうかと思う。 ○学年別で時間を区切って、行事への参 加数を増やしていければと思う。	○「板倉高校かわら版」は、板倉高校の生徒 の様子や諸活動を伝える大切なツールであ る。掲載内容を吟味し、情報の伝え方をさら に工夫していく。 ○今年度webページを新しいものにした。 今後も、内容の伝え方、更新頻度、見やすさ、 親しみやすさなど、様々な角度から検討し、 情報発信を積極的行っていきたい。
		②本校情報誌「板倉高校かわら版」を年 2回以上発行している。	/	A	A			
		③学校のwebページを月2回以上更新 する。保護者メールも活用し、随時情報 を発信する。		A	A			
Ⅵ 教育のデジタ ル化に努めてい ますか。	10 ICTを活用した指導を 行っていますか。	①80%以上の教員が、教科等の指導場面 においてICTを活用し、個別最適な学び、 協働的な学びを追究した授業を実践す る。	A	A	A	○教職員間でICTを活用した指導の実践事例を共 有し、生徒の活用推進していくようにする。 ○教職員間でICTを活用した業務改善の実践事例 を情報共有し、引き続き校内研修等を実施して いくようにする。	○Chromebookに、Word、Excelが必要な のではないかと。 ○Classroomでの課題等のやりとりは、 面白いと思う。 ○ICTについて、Aという評価は、先生 方の努力の証だと思う。 ○学校評価も希望者にはデータ送受信で 対応してほしい。	○生徒のChromebook使用率を向上させていく ようにしていく。 ○今後も、職員の業務改善の観点から、ICT 化を推進していく。 ○生徒へのアンケートは、引き続き、Google formを活用していく。
	11 ICTを活用した業務改 善を行っていますか。	①校務分掌・学年等においてICTを活用 した業務改善を進め、校務分掌・学年等 が実施する諸調査等の60%以上をペー パレスで実施する。	A	A	A			